



# 肝ぞう通信

## 第3号 《 原発性胆汁性胆管炎について Q & A 》

### お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。  
当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院1階  
総合相談室

受付時間：

平日 9:00～15:00

土曜日 9:00～12:00  
(第2・4土曜日除く)

### 豆知識

原発性胆汁性胆管炎は比較的まれな病気ですが、肝機能障害の原因として重要な疾患です。早期診断、早期治療が大切です。

### 次回号

テーマ：

肝がんの化学療法と副作用対策

### 発行責任者

東海大学医学部付属病院  
肝疾患医療センター長  
加川 建弘

## 原発性胆汁性胆管炎とはどのような病気ですか？

原発性胆汁性胆管炎は慢性進行性の胆汁うっ滞性肝疾患です。肝臓の中のとても細い胆管が免疫学的なメカニズムにより破壊され、胆汁の流れが通常よりも滞ってしまい、血液検査をするとALPやγGTPなどの胆道系酵素が高い数値になります。さらに、血液の中に抗ミトコンドリア抗体(AMA)という自己抗体が検出されるのが原発性胆汁性胆管炎の特徴です。この病気は英語ではPrimary Biliary Cholangitisといい、頭文字をとってPBCと呼ばれます。

## どのような症状がでますか？

多く(70～80%)の患者さんに自覚症状はなく、このような状態は無症候性PBCと呼ばれます。さらに診断後も一生無症状のまま経過する患者さんがほとんどです。

20～30%の方に症状が表れますが、特徴となる症状は皮膚のかゆみです。皮膚に発疹が出ず、他に特別の症状もないのかゆみだけが現れます。皮膚にかゆみが見られ、数年経過した後に黄疸が出現するようになります。